

今月号より毎回、医療の質向上のためにユニークで先進的な取り組みをしている病院を紹介してまいります。

「するプロ」で業務改善

医療法人社団東光会 戸田中央総合病院

「Gメン→2013」が昨年度に引き続き最優秀賞を受賞。テーマは「ゴミの分別」。

今年3月に行われた2013年度の「するプロ」院内発表会の結果です。「するプロ」とは「病院をよくするプロジェクト」の略称。「病院の基本である『質保証』『質向上』について、現場レベルから見直しを行うこと」を目的としています。

「するプロ」の歴史は1999年、現在の中村毅理事長が、院長に就任された時までさかのぼります。中村院長は当時の病院目標を改め、その際に掲げたものの1つが「職員のやる気とアイデアを大切に」でした。その後、2000年に顧客満足向上計画を開始するなか、ボトムアップ方式の取り組みとして、01年度より「するプロ」をスタートさせました。

10年度までは、単独部署の職員で参加するケースが多かったのですが、11年度頃より複数の部署の職員がチームを作って参加するようになりました。医療の質向上のために業務の効率化を図り、改善に向けた討論を重ねていくうちに、しだいに1つの部署だけでは解決できない問題が挙がってくることになり、各部署が協力して取り組む体制ができてきました。

冒頭に挙げたチーム「Gメン→2013」も、看護部をはじめ医局、コメディカル、事務部門等10部署から職員が参加し、感染性廃棄物をはじめとする医療廃棄物の適正な廃棄を進めてきました。結果として感染性廃棄物が減少し、入院患者1人当たりの医療廃棄物処理料金の削減につながりました。

「するプロ」の活動は、約1年にわたって行われます。毎年4～5月にワークアウト研修が実施



され、6月頃に「するプロ推進委員会」が統一したテーマを発表します。それに基づいて、6月末頃までに各チームからテーマが出され、活動が開始されます。10～11月に中間発表会が行われ、ここでは委員会から適宜アドバイスを得ることができます。そして翌年2～3月に最終発表会が行われ、ここで選考委員により最優秀賞以下、各賞が決められます。

原田容治院長は、「するプロ」が優れている点として、「すべてボトムアップの行動であり、いくつかの職種がチームで活動すること」を挙げています。また、院内での発表演題のうち優れた数題の演者には毎年、全国規模の学会で発表する機会が与えられます。

このように着実に成長を続けてきた「するプロ」ですが、推進委員長である畑山麻酔科・ICU部長は、「ここまでレベルが上がってしまうと、逆にもっと身近な問題が見過ごされてしまうおそれもある」との懸念を抱いています。「職員がストレスなく健康に働ける職場を作っていくことも『するプロ』に大いに組み込んでいきたい」（同部長）と今後のさらなる発展に意欲をみせています。（企画部 林 秀行）

医療法人社団東光会 戸田中央総合病院

埼玉県戸田市本町。許可病床数一般462床。1998年9月認定第GB0061号（一般B）、2004年6月認定第GB0061-02号（一般200床以上500床未満）、08年12月認定第GE61-3号（同）、13年10月認定第GB61-4号（一般病院2（200床以上500床未満）（主たる機能））。